

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成28年12月8日 (2016.12.8)

【公開番号】特開2015-183178(P2015-183178A)

【公開日】平成27年10月22日 (2015.10.22)

【年通号数】公開・登録公報2015-065

【出願番号】特願2014-63917(P2014-63917)

【国際特許分類】

C 0 9 J 133/06 (2006.01)

C 0 9 J 133/14 (2006.01)

C 0 9 J 7/02 (2006.01)

C 0 9 J 133/08 (2006.01)

【 F I 】

C 0 9 J 133/06

C 0 9 J 133/14

C 0 9 J 7/02

C 0 9 J 133/08

【手続補正書】

【提出日】平成28年10月19日 (2016.10.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 5 2 】

製造例 (A 1) [重合体 (A) の製造] :

攪拌機、還流冷却管、窒素導入管、温度計、滴下管を備えた反応装置に窒素雰囲気下、2 - エチルヘキシルアクリレート 15 部、イソオクチルアクリレート 30 部、メチルアクリレート 4 . 7 5 部、4 - ヒドロキシブチルアクリレート 0 . 2 5 部、重合開始剤であるアゾビスイソブチロニトリルを適量、さらに溶剤として酢酸エチルを仕込んだ。溶液温度が 80 になるまで加熱した。

次いで、滴下管に 2 - エチルヘキシルアクリレート 15 部、イソオクチルアクリレート 30 部、メチルアクリレート 4 . 7 5 部、4 - ヒドロキシブチルアクリレート 0 . 2 5 部、アゾビスイソブチロニトリルを適量、酢酸エチルを仕込んだ。

前記反応装置を溶液温度が 80 になるまで加熱し、反応装置内で反応が開始したことを確認後、前記滴下管から溶液を 2 時間かけて滴下した。滴下終了後、反応温度を約 80 に保持し 5 時間反応を継続した後、冷却を開始した。次いで酢酸エチルで希釈し、不揮発分を 40 % に調整した。これにより重量平均分子量は 90 万の重合体 (A 1) 溶液を得た。